

# 伝説のバンドマンズイッパ

きやくほん・井上悠介

とうじょうじんぶつ

ケーシー／ギターリスト（しゅじんこう）

クリス／ボーカル

ステファニー／ドラム

マクドナルド／キーボード

だい三わ

すぶたい。かみてにガラクタの山。

ナレ「ひっしのせつとくにより、でんせつのドラマー・ステファニーをバンドメンバーに  
くわえたアルバたち。さいごのメンバーとなる、でんせつのキーボードプレイヤー  
をくわえるべくアルバは、よよぎこうえんへとむかっていた」

アルバ「ほんとうにこんなところに、でんせつのキーボードプレイヤーなんているんだろ  
うか」

どこからかきこえるけんばんハーモニカのゲットワイルド。かみてのほうのあかりがゆ  
っくりとつき、でんせつのキーボードプレイヤー、マクドナルドのすがたがみえる。

アルバ「まさか、あの人・・・！ スビマセン！ スビマセン！」

ゆっくりとけんばんハーモニカのえんそうをやめ、おくからウイスキーのこびんを  
とりだし一口たしなめるマクドナルド。

マクドナルド「なんだ？ ここはおまえみたいなのかものかくるところではないぞ」

アルバ「もしかしてなのですが、あなたはあの、でんせつのキーボードプレイヤー、

マクドナルドさんですか？」

マクドナルド「でんせつのキーボードプレイヤー・・・か。たしかにむかし、そうよばれ  
たこともあったな」

アルバ「おねがいです。ぼくは今、あたらしくバンドをくもうとかんがえています。ぼく  
のつくりたいおんがくには、あなたのちからがひつようふかけつなのです！ ど  
うか、メンバーにくわわっていただけないでしょうか？」

マクドナルド「・・・。わしのちからがひつよう・・・か。そうかそうか」

アルバ「どうでしょうか？」

マクドナルド「わしはな、こうみえてもむかし、ちょっとは名のしれたバンドのメンバー

だったんじゃ」

アルバ「とっていますと」

マクドナルド「メジャーになりたいくてがんばる人はたくさん見てきたつもりだ。うちのバンドはうんよくうれることができた。だが、そこでもとめられるのはしよぎょうてきでたいくつな、りょうさんされるようなきよくばかりだった」

アルバ「でもすごいじゃないですか」

マクドナルド「そこでバンド内はもめにもめてな。これがほんとうにおれたちのもとめるおんがくなのか？ って。ただしようひされるだけのつまらないバンドになりさがってないかってな」

アルバ「はあ」

マクドナルド「けつきよくいけんはまとまらずバンドはかいさんした。まあ、いいおもいでだったよ」

マクドナルド、こびんのウイスキーをのみほす。

アルバ「そうでしたか……。で、どうでしょうか？ ぼくのバンドにくわわっていただけるのでしょうか？」

マクドナルド「はなしをきいていたか？ わかものよ。わしはもうつかれたんじゃ。ゆめをおってキラキラしているわかものひかりがうしなわれていくさまをわしはもう見とうない。すまん。ほかをあたってくれ」

アルバ「でも、ぼくのめぎすおんがくには、あなたがいはんがええられないのです！」

マクドナルド「わしのなにをしつとるといいうんじゃわかものよ。もうわしは、よのなかとはむえんでくらししていきたいんじゃ。ハトはいいぞ。ハトは」

鳩「クルックー」

アルバ「ではもう、おんがくはやらずに、ずっとここにいるんですか？」

マクドナルド「ああ。わしはこうやって、たまにゲットワイルドをひくだけでじゅうぶんなのさ」

アルバ「・・・わかりました。ありがとうございます。それでは、かえらせていただきます」

かえろうとするアルバ。

マクドナルド「……。ちょっとまで。わかものよ。そのギターはなんだ」

アルバ「これですか。これはぼくがこうこうせいのところ、お金をためてリサイクルショップで買った、クリスマスステファニーとはまたちがったかたちの……。あいほうです」

マクドナルド「……。リサイクルショップか。ちょっとかるくひいてみい」

アルバ「え？　ここでですか」

マクドナルド「ああ。わしだっておんがくがきらいなわけではないんだ。さいごののぞみだとおもってちよつとばかしだけわしをたのしませてくれないか」

アルバ「……。わかりました。ぼくのおんがく、ぜんしんでうけとめてください」

アルバがものすごいギターテクをひろう。マクドナルドがうなる。

マクドナルド「うむう……。」

アルバのかなでる音がだんだんとゲットワイルドになっていく。しらずしらずのうちにけんばんハーモニカに手がのびるマクドナルド。二人で一つのゲットワイルドをかんせいさせる。そのきよくがおわったとき、二人のきもちが一つになっていたことは言うまでもない。

アルバ「はあ……。はあ……。はあ……。」

こうえんのハトたちがかんせいを上げている。

マクドナルド「なるほど……。な。さいごにこのわかものにかけてみるのもわるくはないかもしれないな」

アルバ「バンドメンバーにくわわって、くれますか？」

マクドナルド「ああ……。おれでいいなら」

ころなしがすこしわかがえったマクドナルド。

マクドナルド「じゃあなおまえら。すこしばかしここをるすにする。えさがほしいならほかの人をあたってくれ！」

なごりおしそうになくハトたち。

マクドナルド「かいさん！」

ハトたちがバサバサとびたっていく。

マクドナルド「おまえ、そういえばなまえはなんていう？」

アルバ「アルバです」

マクドナルド「アルバか。あらためて、おれはマクドナルドだ。よろしくな」

あついあくしゅをかわす。

ナレ「こうしてアルバは、マクドナルドをバンドメンバーにくわえることにせいかうした。のちにこのであいが『よよぎこうえんのせんこう』とよばれ、ちまたをしんかんさせることになるのは、まだこのときの二人には、しるよしもないのであった」

マクドナルド「あ、そうだ。アルバ」

アルバ「なんだいマクドナルド」

クリス「そのギターに、これをつけてみてはくれないか」

アルバ「なんですか？ これ」

クリス「これをこうしてこうすると、ほら。こうなった」

アルバ「はい」

クリス「ここをこうすることで、ギターからかなでられる音のしんどさをどうふくし、からだぜんたいに音をひびかせることができる。おもしろいくらいに『すぎなミュージシャンの一人です』といわれるようになるぞ」

アルバ「すぎと言われたいのためにやってるわけではありません」

クリス「ああ。だが言われてそんはないだろ。のちのちじぶんのためになる。ありがたうけとっておけ」

アルバ「ありがとうございます！　すごい！　ギターがパワーアップしたぞ！」

かっこいいおんがくがながれる。あんてん。

だい三ぶ　かん